

鶉野飛行場について

一般質問



黒田 秀一 議員
(自民の風・誠真会)

問 滑走路は、当時の姿を残す形で保存すると聞いているが、どのような保存計画なのか。

答 現在進めている都市再生整備事業では、鶉野飛行場跡地の北側を滑走路跡地整備地区として防災拠点施設や地域間交流施設の整備を計画し、鶉野飛行場跡地の南側を滑走路保全地区として原則飛行場跡地を保全する地域としています。なお、滑走路の具体的な保存計画については、今後鶉野平和祈念の碑苑保存会の方々の意見を尊重しながら進めていきたいと考えています。

問 防災施設や防災公園はどのように整備する計画なのか。

答 防災施設としては、当時の飛行機の格納庫をイメージした防災備蓄倉庫や100トの水を溜める貯水槽などの整備を計画しています。また、防災訓練用や避難場所を想定した防災公園を防災備蓄倉庫の南側に整備したいと考えています。

問 ミュージアムの建設までのスケジュールについて。

答 建設には多額の費用が必要になるため、国の地方創生推進交付金事業を活用する計画であり、事業申請の後、採択された場合には、基本設計、詳細設計、建設工事と進み、順調にいけば平成33年度頃に完成できると考えています。

問 紫電改の実物大レプリカ完成までのスケジュールは。

答 3月末に公募型プロポーザルで募集した事業者のプレゼンを実施して事業者を決定し、平成29年度中に設計、平成30年度中に製作を完了したいと考えています。

防災監の採用について

問 地方自治体が防災の専門性を有する外部人材を採用する制度について。

答 平成27年10月に創設された地域防災マネージャー制度は、内閣府の実施をする防災スペシャリスト養成研修の全コースを受講した者や防衛省の実施する防災危機管理教育を修了した者などを内閣府が地域防災マネージャーと認証し、その者を地方自治体において防災監や危機管理監として採用した場合に、その人件費の一部が特別交付税の交付対象となるというものです。

幼保一体化について

一般質問



深田 真史 議員
(加西の新しい未来を創る政策研究会)

問 加西こども園への統廃合にあたり、教育委員会は「保育・幼児教育の質向上」を強調した。しかし、これは加西こども園に限らず、北条西、泉でも言えることである。結局、加西こども園はどのような特色を打ち出すのか。

答 他の園と同様、0歳から5歳までの育ちの連続性を生かした保育教育を実施し、公立園らしい落ち着いた雰囲気の中で日々の生活や自主的な遊びを通して、地域と共に成長を見守っていくことを基本に、これから保護者

や地域の方にもご協力をいただき、加西こども園らしさをつくり上げていけたらと考えています。

問 幼児園の統廃合が進む中、幼小連携・幼小交流をどう進めるのか。

答 教育委員会の基本的な考え方は、園児たちが小学生との交流で、共に喜び一緒に遊ぶことを楽しむ中で、親しみや憧れの気持ちを持つようになることがねらいです。小学校との連携は、一番近い小学校との交流が基本になると考えています。

問 11小学校を存続する方針を打ち出しながら、幼小交流は近くの小学校へ、というのはいかがなものか。

答 進学する小学校への体験入学ほか、行事の参加・見学を検討したいと思います。そのため、小学校との調整も進めていき

たいと考えています。

問 通園バスについて、加西地区では2年前に「通園バスは出さない」と教育委員会が見解を示した。しかし、現在、統廃合を議論している泉地区では、具体的な資料まで示してバス導入を検討している。議論はその後どうなったか。

答 泉地区は広範囲のため、バスの検討もしていましたが、アンケート結果や協議会の議論で運行時間や集合場所の問題などもあり、運行しない方向で動いています。

問 公立園では、将来的にも通園バス導入の可能性はないのか。

答 将来的にも運行するのは難しいと考えています。